

いせはら生涯学習 ボランティア協会ニュース

第 305号 2026年 7月号

会長 逢坂伸一

今年度もよろしくお願いたします

会長 逢坂伸一

かつての職場での私の部屋からは、いつでも大山の姿を見ることで、季節の移り変わりや気候の変化に気づくことができました。その中でも、積雪時の山頂付近の光景の変化に時の流れを感じたものでした。ずっと以前には、冬の雪景色の中でも、1箇所だけ一際鮮やかに白い部分、その形が乳牛の姿に似ていたことから、子供たちのハイキングの際には、“大山の牛さんに会いに行こう！”という言葉がけをしたものでした。

ところが、それから10年余りを過ぎた頃には、丸まった猪風、あるいはタツノオトシゴのような形の白い姿も眺められるようになり、特定の目標とはならなくなってしまいました。すなわち、雪の季節の中でも、枯れ木の多いエリアで

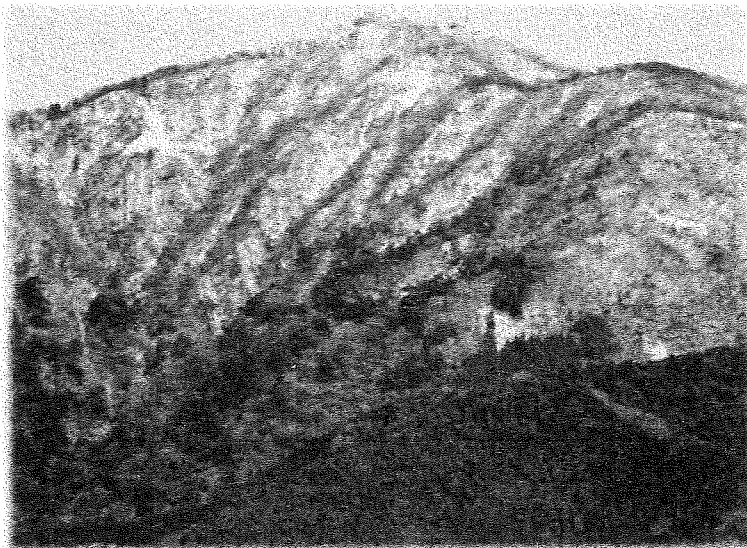
あり、夏の緑豊かな景色の中でも、枯れ木部分や崩れつつある光景が眺められるようになりました。そして、ずっと以前には尾根伝いに遠くを眺めながら歩いた道も谷道となったことを嘆くとともに、山あり、谷ありの私たち高齢者の人生と重ね合わせながら、これからの世の中はどんなふうになっていくのだろうかと思ひながら、職場を去って、今の私があります。

環境の変化に耐えながら、地域の人々が協力し合って、今よりも豊かで幸せな暮らしを営むためにはどのような社会を構築しなければならないのか、そして、若者も高齢者も、ともにしっかりと暮らすことのできる、いわゆる地域の人びとの居場所づくりなどについて、もっと真剣に話し合う必要があると思っております。

私たちの「いせはら生涯学習ボランティア協会」は、マチの人々が協力し合いながら、楽しく生きる方法や行動を探し求めることをみんなで考える場です。

多くの市民の方が、私たちの趣旨に賛同し、未来の明るい地域づくりにご理解とご協力をいただきますことを心からお願いいたします。

(2026年6月 記す)



冬の大山

第 27 回”いせはら生涯学習ボランティア協会”総会が開催される

5月28日午後1時半より伊勢原市中央公民館3階会議室Aにて第27回いせはら生涯学習ボランティア協会の総会が萩原伊勢原市長はじめ7名来賓と会員を含め30程の出席を得て開催され、すべての案件が確認されました。

司会は副会長三瓶ミネ子氏で、議長に相原博・東博子の両氏を選出しました。先ず逢坂会長の挨拶があり、続いて萩原伊勢原市長から祝辞を頂きその中で”生涯学習の意義と長年の運営、努力に対し敬意と激励”の旨の祝辞を頂きました。

更に来賓として宮村教育長、や観ボラ会長代行、甲冑隊長などがからもそれぞれ祝辞を頂戴いたしました。御多忙中の来賓の方々の為、退席の

前に全員で記念撮影をして全員に配布されるように手配をしました。

第一号議案を三上事務局長が提案。27期の定められた計画をほぼ実施できたこと、市民大学は過去最高の参加者を数えたこと、各集会の役員の出席率は略70%を達成したこと、などの報告がありました。第2号議案は加藤会計担当役員が会計報告を行い、第3号議案は次期役員の推薦を逢坂会長が提案し夫々承認されました。

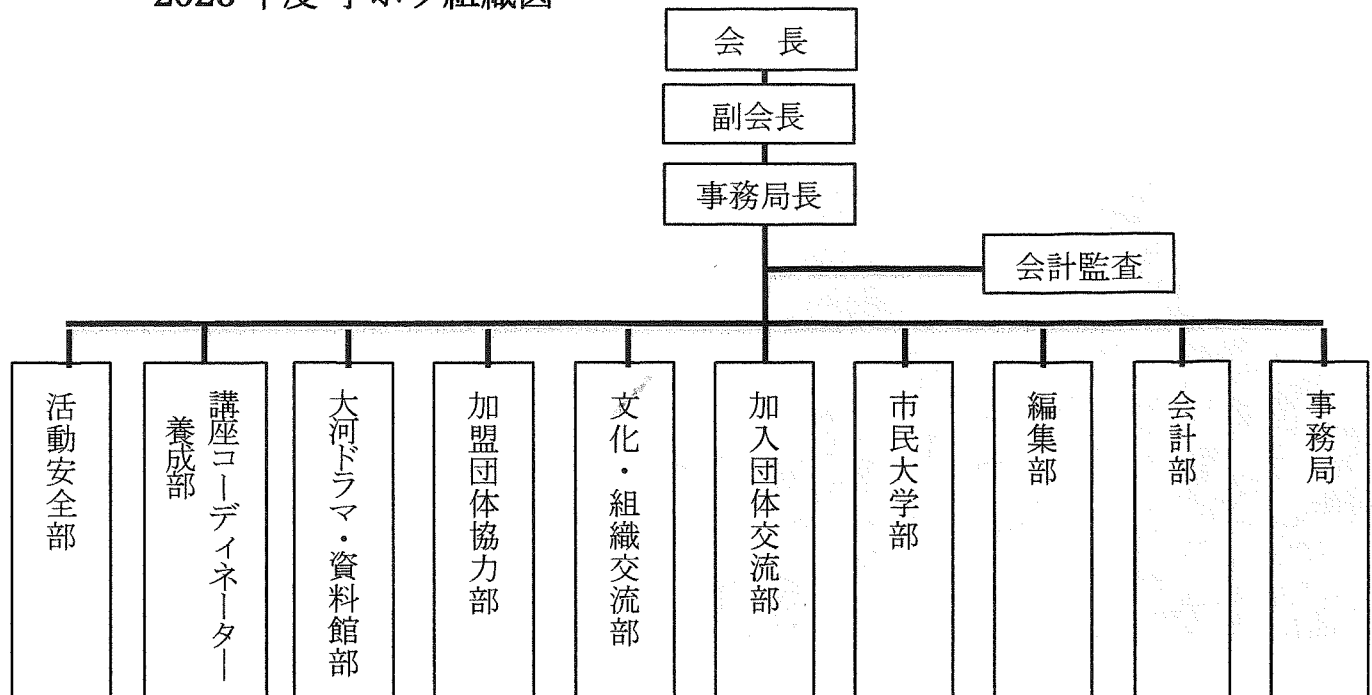
新事務局長は天野隆史氏に、そして新たに中村氏と竹内氏の2名の役員を選出しました。合計17名の役員と会計監査は清水氏と宮崎氏の新体制が承認されました。退任者は6名でした。

退任者代表として梶田紀子氏が挨拶され、今後の発展を祈念されました。

総会終了後、懇親会が開かれ三浦副会長の音頭の下、3曲を歌って総会終了となりました。



2026年度学ボラ組織図



6月の中旬に上粕屋にお住いの山口孝夫(76)さん宅の工房を訪ねてみました。

そこには、数々の作品が待っていました。高齢者が喜びそうな、竹製の杖を始めに太鼓を叩くアメリカザリガニ、バイオリンやギターを弾くキリギリスと思われる虫たちを見ると、竹でできたものとは思えず、そのメルヘンの世界に引き込まれてしまいます。

山口さんが、竹で作品を作り始めた端緒は現役世代の北海道勤務時代(1999年頃)だと言われます。単身赴任中の冬は雪と寒さにより、家の中に籠もらざるを得なく暇でしうがなかったそうで、そんな中思いついたのが”竹とんぼ”だと言います。家の中で作って飛ばせて遊べるし、工具や場所もそんなに必要ありません。しかし、北海道には竹が自生していないので、帰省の都度、伊勢原の自宅近所で材料探しをしたとのことでした。

その後、仙台勤務時代(2002年頃)に

東北大学構内に落ちていた街路樹の枯れ枝を使って杖を作って技術を磨いていたそうで、今の竹製の杖に繋がっています。

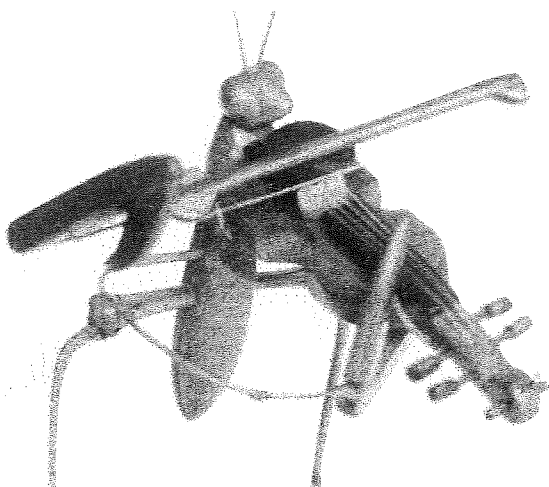
その後、大阪時代に昆虫をモチーフにした作品を作り始めました。バッタ、カマキリ、クワガタ等を図鑑を参考しながら細部まで忠実に再現することを目指していました。

新潟勤務時代には釣り竿の制作も始めました。釣り竿の製作技術の一つである絹糸を使う補強方法もマスターした事で、3段繋ぎの竹竿もできるようになりました。

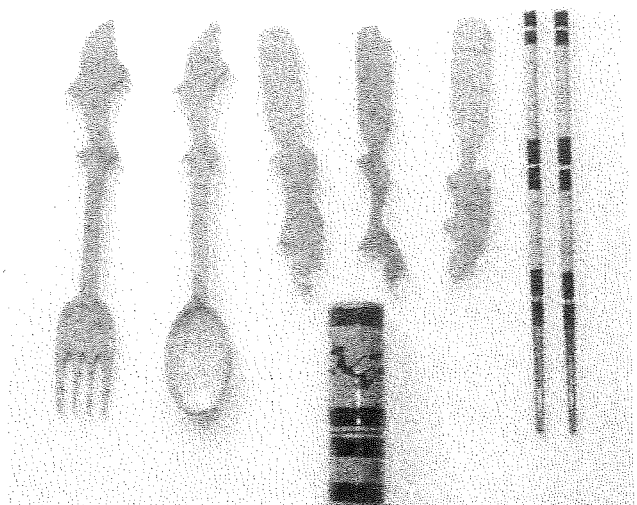
そんな山口さんは、今も元気に製作に励んでいます。自宅周りに材料が無くなったり、工具が故障したりと製作スピードがおちています。しかし、材料の採取やその形状から作品デザインを考えることは楽しい。うえ、細かい手作業をする事がボケ防止になると話して頂きました。このように、生涯に亘る趣味を学習する方を見習いたいなと思いました。

(杉本)

以下は作品集の写真です



バイオリンを弾くカマキリ

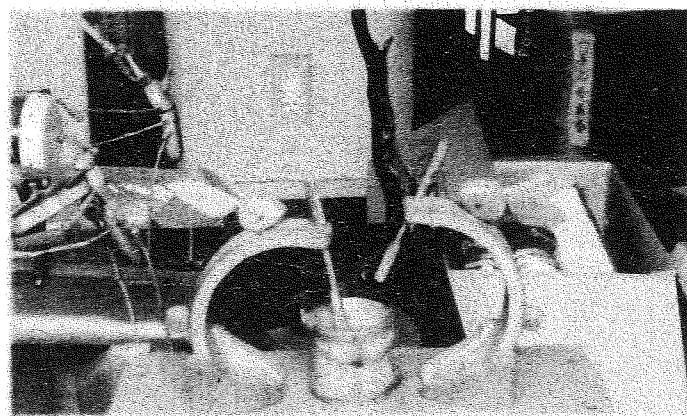
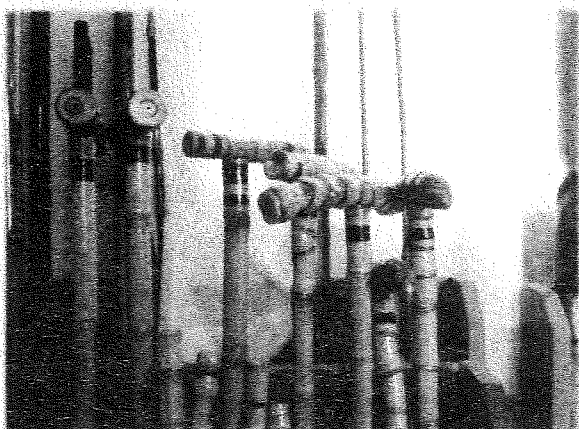
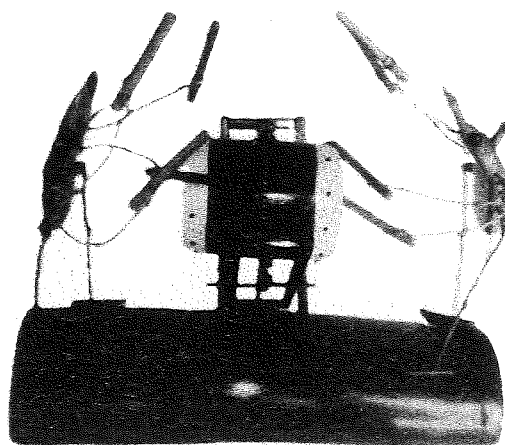
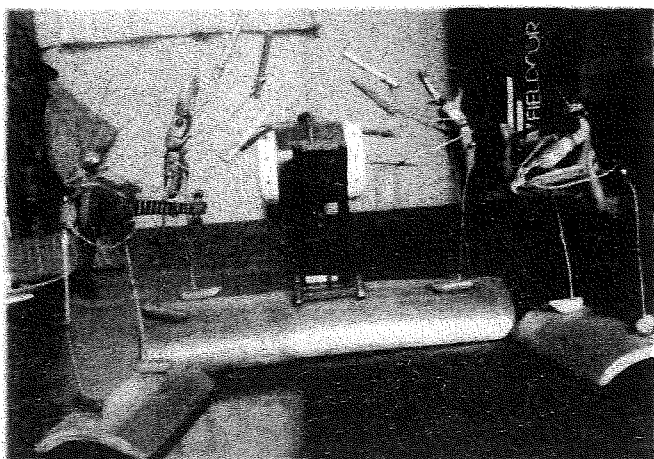


食事用具

(P4に続く)

(P3 より続く)

以下の写真から中身と作者の意図を想像してみてください



役員会議予定表

No.	月日	開催曜日	開始時間	行事内容	該当者	場所
1	7 9	第2木曜	13:30	事務局会議	該当役員	中央公民館 第1学習室
2	7 23	第4木曜	13:30	役員会	役員全員	中央公民館 第1学習室
3	8 13	第2木曜	13:30	事務局会議	該当役員	中央公民館 第1学習室
4	8 27	第4木曜	13:30	役員会	役員全員	中央公民館 第1学習室

“編集後記”

5月末の総会を経て、今年度の編集部会が張り切ってスタートしましたが、毎年6月から8月にかけて、学ボラとしてはニュース記事にできる行事の端境期です。

誌面を活用すべく是非会員の方々の貴重な体験談や見聞、ご意見などをお聞かせいただいで出来るだけ誌面に生かしたいと思います。

方法は下記のメールアドレスかへの投稿、あるいは編集部会のメンバーなどに原稿を託などして頂けると有難いです。

【gakubora2024@gmail.com】